

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、三方原圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和3年6月16日（水）10時から12時まで
参加者	委員：14人（欠席者2人） 事務局：2人 その他：14人（高齢者福祉課：2人、北区長寿保険課：1人、地域包括支援センター三方原：7人、市社協地域支援課1人、市社協北地区センター3人）
場 所	浜松市みをつくし文化センター2階 大研修室
内 容	<p>1. 会長挨拶</p> <p>高齢者を助け、住みよいまちにするために皆さんと一緒に考えていきたい</p> <p>2. 自己紹介（新任のみ紹介）</p> <p>代表挨拶</p> <p>私たちの立場でどんなことができるのか忌憚のないご意見をいただきたい</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①昨年度の振り返り</p> <p>第1回コロナ禍の活動の様子と対応について</p> <p>第2回シンポジウム開催（協議体の目的と意義、地域の活動報告）</p> <p>第3回三方原圏域の来年度に向けた取り組みについて</p> <p>②今年度の協議体について</p> <p>年間3回開催予定（実施表参照）</p> <p>取り組み：情報発信と担い手の確保＝広報啓発</p> <p>多くの方に知っていただき活動に寄り添う方を見つけていく</p> <p>③はまま友愛の高齢者プラン *冊子参照</p> <p>高齢者福祉課医療・介護担当課長より 挨拶と説明（協議体に特化した箇所）</p> <p>表紙：予防、医療、介護、生活支援、住まいの5つの構成要素</p> <p>P6：高齢者人口と高齢化率の推移と推計；下段 R3 青～R22 ピンクまでの推移</p> <p>P21：地域包括ケアシステムの姿</p> <p>生活支援＝協議体、生活支援コーディネート業務→市社協や地域包括へ委託</p> <p>住民主体サービス→家事支援や移動支援を各地域に拡充・推進</p> <p>P22：日常生活圏域と地域包括支援センターの担当圏域図</p> <p>P35：生活支援体制づくり協議会</p> <p>1層（市域レベル）2層の地域課題や課題に向けた支援策、先進都市の事例共有</p> <p>2層（地域包括担当圏域）1.各地域の課題を抽出 2.支援の検討</p> <p>社会資源の把握、地域の活動状況の共有、高齢者の社会参加が重要</p> <p>最終的には地域の高齢者等への様々な支援へ繋げていくことを期待</p> <p>④各地区情報共有（発表10分×3地区） *各資料参照</p> <p>1)三方原地区社協（O会長）</p> <p>●広報・啓発活動でよかったこと</p> <p>情報発信と広報活動は大事一工夫（文字や写真、発行回数など）</p>

「家事支援周年記念事業」兼「福祉講演会」→プレスリリース  
家事支援事業チラシ+民児協メンバー顔写真で紹介=保存版→全戸配布  
今年4月ホームページ開設→誰でも三方原地区社協の全容が見れる

●課題

担い手の確保→「担い手」を具体的にする 対象を小分けする必要がある  
ボランティアの高齢化→若い年齢層を取り込むためには？

活動中のボランティアグループ（個人を含む）の把握

当圏域以外の好事例の情報紹介・共有

2)都田地区社協（M会長）

今年4月から会長 都田地区（14地区）で今まで取り組んできたこと

農業体験：地域との関わりをもつ=R1.高校生のジャムづくり体験

寺子屋活動：夏休み期間、縦の活動で関わりをもつ

クリスマスケーキ届け：小・中学生、自治会、地区社協の協働活動

77歳以上の一人暮らし、夫婦のみ153名に配布

協働センターまつりへの参加：

地域子どもたちが年配者から学ぶ（車いす体験他）

輪投げ大会(5人1チーム)/チーム編成は自由 商品は地元産で楽しむ

都田地区の願いどこかで一堂に会する場所を持ちたい=お互いを知り広がる輪

(新規活動)『家事支援』；ケーキ配布世帯へ訪問、実態把握

困っていても他人に話さない、言えないご家庭が多い

\*今困っている（スマホでワクチン予約、交通手段等）

チラシ配布一連絡先に若い方も入れた

3)新都田地区社協（Y会長）

新都田自治会連合会の中に生活部会があり活動を進めてきた

市社協の勧めもあり地区社協に入り令和2年からスタートした

新都田地区社協だより；1年間の活動を紹介（告知活動）\*Y会長一任

支援団体・各部門紹介

社会福祉法人公友会は自治会を通してお世話になっている

→自治会の祭りは公友会が始め、自治会が受け継いだ事業

施設を利用して地域活動をしている

☆しあわせカフェ：サポーターの確保（横のつながり）=現在10数名いる

☆テクノ歌声サロン：生活部会から継続 コロナ禍で7月末まで休止

☆トーンチャイムクラブ「ラルゴ」：今年度からスタート

☆民生委員児童委員：地域の皆さんに知っていただく

☆高齢者支援見守り隊：高齢者独居・高齢者夫婦世帯が対象 格安で支援

☆歳末餅つき大会

高齢者独居・高齢者夫婦世帯へのし餅を配布—民生委員対応、会話ができた

★役員4名不足—議事進行、書記、幹事など担い手不足—会長の代で探す

●地域で出た課題を2層で検討して、解決策等を地域へ落とししていく

⑤関係機関・事業所から 自己紹介、コメント

○地域包括支援センター三方原 7名

- ・最初は手探り状態 ・地域の認知度は低い ・領域を越えての支援体制
- ・SC研修受講（他市町村の活動紹介） ・地域の課題や困りごとに取り組む
- ・活動や今後の課題などを参考に支援に入りたい

○常葉大学 保健医療学部 作業療法学科 2名

- ・昨年、学校を使用し講習会等開催 ・大学として何ができるか（地域貢献）
- ・学生と地域の結びつき→コロナで思うように活動ができない（ジレンマ）
- ・SNSは学生の強み—何かしら地域貢献ができる？学生を地域で育ててほしい

○浜松北地域まちづくり協議会

- ・浜松医大の学生と一緒にコロナの学習会や地域課題に取り組んできた
- ・地域全体の子どもたちから高齢者までいろいろ関われる事業を展開  
(特に夏休みに小学生の課題を終える講座、健康ウォークなど)
- ・活動中に意見や困りごとを伺い自分たちの活動の中に取り込むよう努めている
- ・本当に困っている方の姿が見えない→痛い所に手が届いていない状況
- ・あいホール『貧困の問題で生理用品が買えない』に協力  
→支援を受ける方が明るいので本当に困っている？

○第2九重荘 2名

- ・在宅訪問にて困りごとを聞き支援へ—家事支援情報の活用へ
- ・地域貢献はクラスターが怖く施設サイドは守りに入っている（ロコモ休止中）
- ・今年介護保険の改正があり益々地域との交流を兼いろいろな活動をしていく  
→施設内で話し合いが進められ、他機関の協力を得て地域交流をしていく
- ・国民年金生活している方が多く困窮状態になってから相談してくる

○介護老人福祉施設 なごみ

- ・去年9月～面会制限中で質素な生活をしている
- ・地域貢献も一切中止—会場も狭いので継続が難しい
- ・利用者様のワクチン接種は2回目が終わった
- ・職員は1回目が終わり、今月末2回目接種で終わる
- ・全体の感染者数が減ったら地域貢献や施設ボランティアの受入を再開したい
- ・今後はもっと積極的にやっていきたい

○市社協地域支援課 「移動支援サービス」

- ・全国移動サービスネットワーク（全国移動ネット）全国的な活動をしている
- ・浜松市は活発ではないが東京の八王子とか場所によっては具体的に実践中
- ・静岡県は去年から業務委託している
- ・相談・問合せ先（☎050-5526-2620）火・木曜日 相談やアドバイザー派遣  
Y会長より

足の問題が重要視されている—利用者の足の確保へつなげる＝重要な問題

	<p>浜北区で実際に操業していると聞いているので有効活用したい  2層の中で考えるべきこと 杏林堂や生協が配送しているが  八王子は浜松市の人口とほぼ同じ、事例等具体的な情報がほしい</p> <p>4. 次回開催日程（案）について 決まり次第、委員等へ連絡  令和3年10月 日（ ）10：00～ みをつくし文化センター2階大研修室  *事前打合せ；9月 日（ ）10：00～ 北区役所 21 会議室 *正副会長出席</p> <p>5. その他  市社協北地区センターからお知らせ→いきいき講座チラシ配布とご案内</p> <p>6. 閉会の言葉 生活支援体制づくり協議体 K 副会長  自治会長 18 年目 他地区の活動を沢山聞かせてもらい大変参考になった</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>各地区社協の活動発表で地域の状況を知り、関係機関・事業所のコメントから、コロナ禍の動きや地域貢献への思いなどを共有することができた。</p> <p>自分が困った時、つながる場所があることをこの協議体で知った方々が、地域で何かの時に口コミ等何らかの手段で伝えていく必要がある。</p> <p>テーマ「広報啓発」について、いろいろな角度から捉え、地域に発信できるよう、協議体だけでなく、地域のネットワークを広め考えていきたい。</p>